

特別講演・宿題報告

温故知新 ―― 放射線技術学の技術変遷と AI 時代 ――

(公社) 日本放射線技術学会 理事／北海道支部長 小笠原 克彦

日本放射線技術学会が設立されたのが1942年であり、本年で77年となる。診療エックス線技師法が施行されたのは1950年の69年前であることから、放射線技術が診療放射線技師という職能を形成したと言っても過言ではないであろう。放射線技術学会が設立された77年前と現在では診療放射線技師を取り巻く環境とその業務が大きく変化していることは論を俟たない。たとえば、この間、結核などの感染症から生活習慣病やがんなどへの疾病構造の変化に加え、放射線技術のバックボーンの一つである工学的な基盤を振り返っても電気工学から電子工学へ、更には情報工学へと変遷している。私が診療放射線技師国家試験を受験した30年前と今を比較すると、私が国試を受験した際はフィルム・現像処理の国試問題が花形であったが、現在ではこれらは消滅し、FPDへモダリティシフトした。また、MRIはまだ出題範囲ではなかったが、現在では放射線技術学の中心にあると言ってもよい。放射線技術が年々進化だけではなく、深化していることを改めて申すまでもなく、近年では、厳しい医療経済のもと人工知能(AI)が放射線技術を大きく変える兆しを感じている。次の30年後にはどのような世界になっているか全く想像がつかない。

今回、6年間の北海道支部長を降任するにあたり、特別講演の機会を得た。北海道支部会員の年齢層が一段と若返っていることから、一度、北海道の放射線技術史を簡単にまとめておく必要があると感じている。そこで、本特別講演では70年間の日本の放射線技術の変遷と北海道支部の歴史を振り返るとともに、AIが放射線技術に及ぼす影響について考えてみたい。

研究倫理講習会

施設倫理委員会への書類提出への手引き

副支部長 杉 森 博 行

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」は平成29年2月に一部改訂されたが、我々はあらゆる場合において、患者やボランティア等の研究協力者の生命・健康・プライバシーおよび尊厳を守り研究を推進していかなければならない。日本放射線技術学会総会大会・秋季大会では応募演題の倫理に関する質問に回答し、プログラム委員会倫理審査担当委員による審査が行われている。北海道支部においても第72回秋季大会より演題応募の際に本部演題募集に準拠した倫理に関する質問を設定し、本部倫理審査相談員講習会受講修了者による審査を開始した。北海道支部では会員へ研究倫理を広く理解いただくとともに積極的に研究を推進していただくために今回は、倫理審査での事例を紹介すると共に施設の倫理委員会へ書類を提出する手続きに関して例を挙げ、会員施設の倫理委員会に申請する際の参考となるよう情報を提供する。